

## ■ 地域デザイン科学部

社会基盤デザイン学科  
教育プログラム・シラバス

取得学位の名称  
◆学士(工学)

### プログラムの概要

社会基盤デザイン (Civil Engineering and Regional Design) とは、安全で持続可能な社会基盤・都市機能をデザインする学問領域です。英訳にある“Civil Engineering”は、Military Engineering に対する“市民工学”として、工学の歴史の中では最も古くから存在し、文明社会を築いてきた学問体系です。我が国においては、中国の故事『築土構木(土を築き、木を構える)』から“土木工学”と呼ばれ、私たちの社会生活と非常に深い関わりを持ち、市民生活の土台となっています。

土木工学が受け持つ分野は大変幅広く、その規模も大小さまざまです。現代の安全・快適な生活を営むためには、電気、水、情報通信網などの社会基盤設備(いわゆるライフライン)が不可欠です。その他、橋や道路などの交通網の整備、公園や街路樹などの環境整備、産業・民生の基盤となる港湾やダム、発電所などのエネルギー施設の整備、斜面安定処理や河川の整備、地盤沈下や土壌汚染・廃棄物など環境問題の解決に向けての対策、地域・国を挙げての防災・減災マネジメントなど、これらの計画から実行まですべてが土木工学を必要としている分野です。

そしてこれからの時代、ただ基盤設備を整備するだけではなく、地域社会の経済・社会・文化・歴史なども見据えて、その地域の課題を適切に解決に導いていく手腕が問われています。本学科では、土木工学とその周辺の専門知識を総合し、新たな道筋を切り拓くための社会基盤の「デザイン」能力を学修します。

### 修了認定の基準 (ディプロマ・ポリシー)

社会基盤デザイン学科では、ディプロマポリシーとなる以下の9つの学修・教育目標を定めています。

- (A) 人間と社会、多様な地域に関する基礎的素養を身につけている
- (B) 科学技術と地域デザインに関する共通のリテラシーを身につけている
- (C) 多様な主体との間で意思疎通が図れるコミュニケーション能力を身につけている
- (D) 社会基盤整備や地域デザインに関わる技術者としての倫理観を身につける
- (E) 自然科学の基礎理論と社会基盤整備のための専門的な基礎知識が理解できる
- (F) 社会基盤整備の実務上の問題に専門知識を適用・発展することができる
- (G) 社会基盤の世界的動向を把握して、グローバルな技術展開ができる
- (H) 社会基盤整備による問題解決のための適切な施策を提案することができる
- (I) 社会基盤整備および施策を適切な形で着実にやり遂げることができる

基盤教育科目36単位以上、専門教育科目90単位以上の合計126単位以上を修得し、社会基盤デザイン学科が掲げる上記の学修・教育目標を達成した者に卒業を認定します。

### 履修条件 (アドミッション・ポリシー)

#### 1. 求める学生像

- (1) 国内・海外の様々な地域の課題解決に関心があり、グローバルに活躍したい人材
- (2) 社会基盤と地域デザインの技術修得に熱意があり、そのための幅広い基礎学力を有する人材
- (3) 社会全体の利益のために奉仕できる責任感のある人材

#### 2. 入学者選抜の基本方針

- (1) 高等学校の教育課程を尊重し、基本的な学力と思考力を備えているかどうかを重視します。
- (2) 地域における社会基盤デザインに対する熱意と問題解決に対する能力を評価の対象とします。
- (3) 主体的な姿勢、論理的思考力、表現力、コミュニケーション能力なども考慮して評価します。

### 学修・教育目標を達成するためのカリキュラム方針 (カリキュラム・ポリシー)

社会基盤デザイン学科では、幅広い知識を持って様々な分野で地域社会と協働でき、グローバル社会においても活躍できる土木技術者の育成のため、以下のようなカリキュラムポリシーを定めています。

- ・1～2年次：数学・物理などの自然科学の基礎、人文・社会科学等、地域デザインの基礎を学び、次いで社会基盤整備の基礎となる構造・材料・水工・地盤・計画等の土木工学の各分野の基礎知識・理論を学修します。
- ・3年次：上記専門基礎を実際の問題にどのように適用し解決すべきかについて、演習・実験等の授業科目を通じて体得します。また各分野の、より発展した知識・理論を学修します。並行して総合的なマネジメント、最前線の現場でのインターンシップなど、土木技術者にとって必要な幅広い知識、経験が得られるように、授業科目が準備されています。
- ・4年次：修得した知識・経験の集大成として、総合的に実践する場となる卒業研究に着手し、問題発見・分析方法や解決策の提案・計画の立案および実行・これら結果の取りまとめによる報告書・論文の執筆および発表に取り組み、社会基盤整備に携わる専門技術者がなすべき一連の仕事を完結できるようにします。

